



こまえをこまげる

# こまごなNEWS

Vol.25

2019年06月17日

発行号

発行:責任編集  
狛江市岩戸北  
3-18-8-701  
狛江で分かりやすい  
政治を伝える会



もつともつと  
狛江市民に愛される  
Jリーグチームを目指して

市内在住  
徳永健さん

今回の「こまえをつなげるインタビュー」のお相手は、狛江市をホームタウンとするJリーグチームFC東京とこまへの街をつなぐ役割を担ってこられた徳永健さんです。6月下旬現在、**チームはリーグ戦で首位を快走中**。今年の冬には、市民サポーターが歓喜の雄たけびを上げる日が来るかもしれません。  
私は地域のスポーツコンテンツを、何とか狛江の活性化に活かしていくことができたいだろうかと思案しておりました。そんな中で、Jリーグの理念である「地域密着」の具現化を、市民レベルから働きかけて長年取り組んでこられた徳永さんのお話は非常に興味深いものでした。  
(聞き手 三宅まこと)

# チームを盛り上げることが市内の商業活性化につながると信じています。

(お話は、徳永健さん)

FC東京との関わりを教えてください。

20年ほど前に「FC東京を応援する狛江人の会」を立ち上げ、ホームページを開きました。全ては「自分の故郷狛江に、地元のJリーグチームがあることを知って欲しい」という思いからでした。

市内のあちらこちらで目にするFC東京フラッグバナーでもご尽力されていますね。

おかげさまで、たくさん市内商店街のご協力をいただいております。最近のフラッグには狛江の表記も入るようになってきましたよ。



市民の方に「自分たちのまちを代表するチーム」としての誇りを感じていただければ嬉しいです。

市内の商店さんにFC東京の掲示版がありますね。

はい。木村メガネ(中和泉一丁目)さんのご厚意で市内の一等地に掲示させていただいております。試合の結果と次戦の告知なんですけど、勝っても負けてもチームに厳しい一言を書くんですが、毎回、どう書こうか?悩みます(笑)。



木村メガネさんには大変お世話になってまして、私が掲示板を書くのが遅くなってしまふ時には、気を利かせたご主人に済ませていただくこともあるんですよ。

今までの活動を振り返られていかがですか?。

これまで一人のファンレベルで、地元狛江でのFC東京ファンを増やすべく、「ホームタウン活動」らしきことを行っていました。市内ではバナーフラッグが掲出され会の創設当時と比べてFC東京ファンも着実に増えてまいりましたが、個人レベルで、これ以上の盛り上げを目指すには限界があると実感しています。

ホームタウン活動とはどういうものでしょうか?。

市民レベルでの活動という意味で言うと、チームと地域がウィンウィンの関係を築いていくことだと思います。

会ではだいぶ前から市内の商業活性化のために、FC東京を盛り上げることは売り上げアップにつながると信じています。そのためにも市内のファンにはFC東京応援協力店をはじめとした市内のお店



に、特に試合日はFC東京グッズを身につけて利用することを呼び掛けてまいりました。例えば、飲食店さんにFC東京のレプリカユニフォームを着ていけば、何か特典があるとか。そうしたことでサポーターがサポーターを呼んで、お店にとっても好循環が生まれてくるのだと思います。



今後はどういう活動を行っていくのでしょうか?。

昨年度のクラブサポートメ

ンバー(チーム育成のための一口千円からの募金制度)に登録している人が狛江市に232人います。近隣自治体と比べ、人口規模をならしてみるとサポーター人数は結構多いんですよ。こうした人たちにもっと関与度を高めていただき、狛江市内でのホームタウン活動を広めていけたらいいなあと思います。

狛江市のやっているクラウドファンディングサイトを活用して、何かプロジェクトを起案するのも一つの方法ですね。例えば、狛江駅北口のメビウス駅前広場でクラブチーム(FC東京)を巻き込んでファン感謝デイを市民主体で実現するとか。

今、コアとなっているFC東京サポーターの皆さんをうまく巻き込んでいく企画が考えられたら面白いですね。楽しみにしてください。(了)